令和5年度　綾瀬市立土棚小学校　学校関係者評価報告書

綾瀬市教育委員会の基本方針	（学校教育分野）　人を思いやり　社会を生き抜く力を身に付けた　綾瀬の子ども	
学校教育目標	よく考える子になろう　　ねばりづよい子になろう じょうぶな子になろう　　思いやりのあるこになろう	
学校経営方針 （グランドデザイン）		
今年度の重点目標	自分の考えを持ち、前向きに取り組む子	

取組分野	評価の観点	学校の自己評価と改善策
1　学習指導	学校は、「よく考える子」を育てるために、工夫や改善に取り組んでいる。	土棚小学校では、「学校として育成を目指す資質・能力」として目指す児童像を【丁寧に取り組む力】、【とことん考える力】、【一歩踏み出す力】と設定しています。全教育活動を通し、これらの力の育成に努めていきます。アンケートでは、保護者・教職員とも概ね肯定的な評価であり、約８割の児童も意欲を持って学習に取り組んでいますが、約２割の児童が学習に対し前向きに取り組めない理由を抱えていることが課題です。校内研究を中心とした授業改善では、基礎・基本の定着を図ると共に児童の学習意欲を高める工夫に一層力を入れていきます。また、多角的な見方、考え方で課題を捉え、既習事項や生活経験などと結びつけてじっくり考えることができるよう、当たり前のこと、基礎的・基本的なことを第一に、積極的に考えを伝えたり、失敗を恐れず挑戦したりする態度を育成しながら、深い学びの実現を目指していきます。家庭学習については、さらに充実が図られるよう、学習の仕方や内容をわかりやすく提示していきます。
2　教育課程	児童は、学校行事に積極的に参加している。	学校行事に意欲的に取り組んでいる様子がわかります。今後も、児童が集団生活の中で自らの責任を自覚し、自らめあてをもって取り組むことで、積極的に取り組むことができなかったと思っている児童も、達成感が味わえ生き生きと活躍できるように、学校行事への取り組み方を工夫していきます。また、それぞれの行事を通し「何を学んだのか」という振り返りの時間を大切にし、行事を通し身に付いたことは何かを明確にすると共に、児童自身がそれらを生活やこれからの人生に生かしていけるようにしていきます。
3　児童・生徒指導	学校は、「思いやりのある子」を育てるために工夫や改善に取り組んでいる。	多くの児童が、学校生活の中のたくさんの場面で友達と協力し、相手の気持ちを考えていると答えています。道徳教育や福祉教室、ショート学活の中で、人との関わりや人権に関する指導を繰り返し行っています。今後も思いやりのある行動を認めたり褒めたりしながら、全ての児童のよりよい変容を促すことで相互の温かな人間関係を育み、自分の周囲にある環境や物に対しても丁寧に接していく気持ちを涵養するなど心の教育に一層取り組んでいきます。
4　児童・生徒指導	児童は、満足して学校の生活を送っている。	児童の９割が「学校が楽しい」と回答し、学級や学校で友達と楽しく生活していると思われます。その一方で、１割の児童が学校生活で苦しさを感じたり悩みや不安を抱えたりしています。設問３の児童の回答とも関連があると考えます。今後も支援体制の更なる充実を図りながら、児童を取り巻く人間関係に職員全体で注視するとともに、一人ひとりの児童の思いが汲み取れるように見守っていきます。一人ひとりの個性を大切にして、お互いを認め合える関係づくりをしていきます。

5　児童・生徒指導	学校は、いじめの早期発見・再発防止のための取組を行っている。	いじめの早期発見を目的として毎月スクールアンケートを行っていますが、スクールアンケートでいじめについての児童からの記述は少ないのが現状です。「スクールアンケートに書く程ではないかな」「こんなこと書いていいのかな」など、書くことへの抵抗があるように感じます。担任に相談しやすい関係づくりをし、躊躇せずに記述してよいということを伝えていきたいと思います。またスクールアンケートの他にも、学校全体で定期的に取り組んでいるいじめ防止委員会、児童指導グループの取組等、学校が行っている指導や取組がありますが、保護者の方への周知が不十分であることがわかります。学校だより等を中心に引き続きいじめは絶対に許さないという強い姿勢を伝えていきます。そして保護者が来校できるような行事や取組も見直し、学校の取組を知ってもらう機会を増やす必要があります。児童や保護者が安心して話ができる環境づくりや、不安や悩みに応じるスクールカウンセラーの存在、常に教育相談に応じていること等を重ねて周知していきます。日常の様子をきめ細かく見たりしながら、いじめの早期発見・再発防止のための指導を徹底していきます。また、道徳の時間等で「思いやりの心」を育むとともに、いじめの未然防止に努め、一人ひとりが大切にされる学校・学級を目指していきます。
6　保健管理	学校は、心と体の健康な子を育てるために工夫や改善に取り組んでいる。	ふれあい活動は児童の多くが楽しみにしている活動です。各学年発達段階に応じて他学年との関わり方を考え、取り組んでいます。アンケートからもたくさんの児童がとても楽しく取り組んでいる様子がうかがえます。異学年集団の中で、教室とは少し違う雰囲気の中、様々な遊びを通して活発に交流する姿はとてもほほえましいものです。グループでの活動をすることで、学級以外での所属感を高め、自己肯定感を高めていくことにもつながります。今後もこの活動だけでなく、毎日の児童の健康状態の把握を基本とし、体力の向上を目指すとともに、スクールカウンセラーとの連携等を行いながら児童の心と体の健康を目指していきます。
7　安全管理、教育環境整備	学校は、児童の安全のための指導や施設の点検・整備に取り組んでいる。	教職員が意識をもって、児童の安全のための指導や施設等の点検・整備にしっかりと取り組んでいます。しかし、児童を取り巻く社会環境の変化や近年の風雨災害の甚大化、昨今の能登半島地震の経験を踏まえ、大地震等の震災に対する備え等、学校として取り組むべきことは限りなくあると考え、現状の対策に付け加えていく形で、「火災や地震を想定した避難訓練」「不審者侵入時の避難訓練」「緊急一斉下校練習」「防災引き渡し訓練」「あんしん教室」等を実施して、危機管理意識を高めていきます。また、ボランティアやPTAの方々の協力を得ながら、登下校の見守りなど、児童の安全対策について取り組んでいきます。
8　支援教育	学校は、一人ひとりの児童に応じた支援の工夫をしている。	教職員の全員が一人ひとりの児童に応じた支援の工夫を具体的に実践しています。今後も、一人ひとりの児童の困り感や保護者の教育的ニーズに寄り添いながら個に応じた支援の充実に努めていきます。また、児童に関する全ての事を担任が一人で対応するのではなく、教育相談コーディネーターを中心に関係者とケース会議を開いたり、いじめ防止対策委員会において事案に応じた適切な対応を検討したりするなどして対応する事を基本とし、他機関とも連携しながらより効果的な支援を目指し取り組んでいきます。
9　組織運営	校長を中心とした運営組織になっている。	学校運営について総括教諭をリーダーとした各グループで計画・立案されたものが、企画会議、職員会議を経て実践され、振り返りをもとに新たな課題を見出し、改善に向けて新たな計画を立てるというサイクルを徹底し、よりよい学校となるように取り組んでいきます。全職員が共通理解のもと実施できるように、職員一人ひとりが担当している行事や取組をねらいに照らして考え、各グループでよく話し合い、それぞれのグループとも連携を図りながら進めています。引き続き機能向上を目指し、組織がよりよく機能するための手立てを検討するとともに、グループ間の連携を深めて学校運営上の課題解決に向け、全職員が一丸となって取り組んでいきます。
10　教職員の研修	学校は、教職員の力量を高めるための取組に力を入れている。	全ての教職員が、丁寧に学び、とことん考え、共に学び合う力の育成に力を入れていきます。変化していく社会から求められる力に対応し、変わらず求められる基礎的・基本的な力も確実に身に付けられるよう、校内研究・研修を通して教職員の指導力向上を目指し、取り組み続けていきます。また、あらゆる教科学習において今までの研究を更に深化させていくために、今後も質の高い授業改善に取り組んでいきます。
11　教育目標・学校評価	学校は、児童の実態を把握し、よりよい児童の成長のための工夫をしている。	約8割が肯定的な評価になっていますが、そうでない評価もあります。今後も個に応じた指導をしたり、より一層児童の実態や課題の把握に心掛けたり、共通理解のもと教職員一丸となって、児童が有意義な学校生活を送れるよう指導にあたっていきます。また、学校・家庭・地域の連携もより密にとれるように見直し、児童のよりよい成長につながるよう努めます。

12　情報提供、保護者・地域住民との連携	学校は、保護者等に適切な情報を提供し、連携を図る取組を行っている。	新型コロナウイルス感染症の影響が少なくなり、学校生活や行事等の様々な活動が以前のように実施できるようになってきました。そのため、保護者や地域の方に学校に来校してもらう機会も増え、昨年度は保護者からの肯定的な回答が８割を切っていましたが、今年度は８５％を超え、学校に対する理解が高まってきていることが分かります。今後も様々な形で学校のことを理解してもらえるように、学校と保護者、地域との連携の推進、また学校からの情報発信の工夫に努め、各種たよりや授業参観・懇談会、学校、学年行事を通して児童の学習や活動の様子を伝えていきます。また、昨年度より立ち上がったコミュニティ・スクールの制度も活用しながら、保護者や地域の方に学校をもっと知ってもらい、また協働しながらより豊かな教育活動が行えるよう努力していきます。

【学校運営協議会からの意見及び改善策】
・コロナが明け、学校生活の行事や様々な活動が以前のように実施できるようになったことで、すべてのことに関して良好であると感じる。
・昨年度は保護者の学校への関わりの減少が見られたが、今年度は保護者が学校に来る機会が増えたことにより、開かれた学校づくりが実現しつつあるように感じる。これからも土棚小学校がよりよくなっていくことが期待できるのではないか。
・保護者が学校の教育活動を理解し、関心や興味を高めているように思う。その一方で、学校の様子について「わからない」という回答も保護者の１割以上あり、どう保護者へのアプローチを働きかけていけばよいのか、保護者同士の関わりも生かしていくなど、より学校のことを知る働きに関しては継続して発信していかなければならないように思う。
・子どもたちは、楽しそうに学校生活を過ごしていると感じる。これも先生方がたくさんほめている成果だと思う。自治体としても声をかけていただけたら協力していきたい。互いの協力体制を高めていきたい。